

平成 31 年度 大阪市立水都国際高等学校

運営に関する自己評価



大阪市立水都国際中学校・高等学校

Osaka City Suito Kokusai

Junior & Senior High School

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育校であり、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの導入をめざしている。国際バカロレアの認定を受ければ、大阪府の公立学校として初めての認定校となる。

英語教育に重点を置いた教育活動として、英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）等の各教科において英語を用いた授業（イマージョン授業）を実施している。しかしながら、入学してきた生徒の英語力の差は大きく、英語にサポートが必要な生徒の支援体制を構築することが喫緊の課題である。

本校の教育理念に基づき多様な背景を持つ教職員によって組織を構築し、生徒たちと共に学校の文化を創っていく取組を進めている。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- ・平成 32 年度末の生徒アンケートにおいて学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%にする。
- ・平成 32 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を平成 31 年度からの 2 年間で全体の 90%を目指す。
- ・平成 32 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、平成 31 年度からの 2 年間で全体の 90%を目指す。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・平成 32 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 90%以上にする。
- ・平成 32 年度末における授業アンケートで「探究的な授業または、探究的な活動に自分も参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 90%以上にする。
- ・平成 32 年度末における授業アンケートで「ICT を用いた授業、あるいは活動に積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 90%以上にする。
- ・平成 32 年度末におけるアンケートで「学校をつくっていく、ということに積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。
- ・平成 32 年度に各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題解決能力を測る試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を前年度より増やす。
- ・卒業段階で実用英語検定準 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 80%以上にする。
- ・平成 32 年度末に実施する授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と回答する生徒の割合を全体の 90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・平成31年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の70%をめざす。
- ・平成31年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の70%をめざす。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・平成31年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。
- ・平成31年度末における授業アンケートで「探究的な授業または、探究的な活動に自分も参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の80%以上にする。
- ・平成31年度末における授業アンケートで「ICTを用いた授業、あるいは活動に積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の80%以上にする。
- ・平成31年度末におけるアンケートで「学校をつくっていく、ということに積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の80%以上にする。
- ・グローバル探究科として、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の認定を受け、教育を実践する。
- ・次期学習指導要領において示される学校教育で身につけさせたい資質と、国際バカロレアの教育でめざす資質との相乗効果を図る。
- ・英語力の指標として、CFERのB2レベルを目標に、英語以外の教科(数学・理科)においても英語を用いて授業を行うことで、生徒の英語力の向上を図る。
- ・各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題解決能力を測る試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

開校初年度において、日々試行錯誤を繰り返しながら、常に生徒と向き合い、本校の教育理念である3E（Encourage, Engage, Empower）に立ち返り、生徒自身が主体的に考え行動し、挑戦し続けられるような環境の構築を行ってきた結果、本校独自の文化が築かれつつある。

生徒の英語力の差については、支援体制の構築に尽力し、EALを中心とした、生徒一人ひとりに対する細やかな指導により改善され、英語外部試験結果に成果が見られた。

大阪市立水都国際高等学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。 ・平成 31 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の 70% をめざす。 ・平成 31 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が活かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の 70% をめざす。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 防災・減災教育の推進</p> <p>南海トラフ地震を想定した地震及び津波に関する知識を深め、自ら危険を回避するために主体的に行動する態度を養う。区と連携した防災カリキュラムを作成し、実践する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火災・震災を想定した防火訓練、防災訓練をそれぞれ年に1回実施する。 ・ 登下校報告書を生徒に作成させる。 	B
<p>取組内容②【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 安全教育の推進</p> <p>安全（防犯）に対する心構えなどの指導を計画的に、継続的に実施し、安全確保を日常生活において実践できるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット、SNS等に関するオリエンテーション、継続的指導を実施する。 ・ インターネット被害防止対策に関する講演会、または研修等を年に1回以上実施する。 	B
<p>取組内容③【施策2：道徳心・社会性の育成】</p> <p>○ 道徳教育の推進</p> <p>LEGO® SERIOUS PLAY®のメソッドと教材を活用したワークショップを通して、一人ひとりの個性を認め、自己表現のスキルを伸ばし、異文化理解を深めるカリキュラムを作成し、実践する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳教育推進委員会を中心に「特別の教科 道徳」のカリキュラムを作成し、実践する。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめアンケートを実施した。結果について学年団等で検討し、個々の生徒への対応及び家庭との連携による指導を行っている。またいじめを考える日、ピンクシャツデー（いじめをなくす啓発運動）を行い、生徒一人ひとりのいじめ及び人権課題に関する意識向上を図った。 ・ 防火訓練・防災訓練を実施した。また地域連絡協議会主催の地域防災訓練に参加するなど生徒の意識向上及び地域との連携協力を努めた。 ・ 生徒会内に SNS コミッティを創設し、生徒主体の SNS リテラシーの向上啓発、学校主体の SNS 及びインターネットリテラシーの向上研修、インターネット被害防止対策研修を行い、生徒・教職員の意識向上に努めた。 ・ 道徳及び国際理解教育を学内のリソース及び学外からゲストスピーカーを招いて実施し、生徒の異文化理解を深めた。 	

次年度への改善点

- 生徒の主体性の意識向上めざした教育活動をより推進するため、教職員と生徒との協働プログラムによる啓発活動を増やす。
- 管理運営法人である大阪 YMCA のリソースを十分に生かして、生徒・教職員のいじめや人権課題に関する意識向上に努める。
- インターネットリテラシー向上をめざし、本校の ICT 担当者とマーケティング担当者が中心となり、ICT の活用をさらに充実させた教育活動を展開する。
- 学外のリソースを取り入れた特色ある異文化理解教育を進める。

大阪市立水都国際高等学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 31 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。 平成 31 年度末における授業アンケートで「探究的な授業または、探究的な活動に自分も参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。 平成 31 年度末における授業アンケートで「ICT を用いた授業、あるいは活動に積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。 平成 31 年度末におけるアンケートで「学校をつくっていく、ということに積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。 グローバル探究科として、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP) の認定を受け、教育を実践する。 次期学習指導要領において示される学校教育で身につけさせたい資質と、国際バカロレアの教育でめざす資質との相乗効果を図る。 英語力の指標として、CFER の B2 レベルを目標に、英語以外の教科(数学・理科)においても英語を用いて授業を行うことで、生徒の英語力の向上を図る。 各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題解決能力を測る試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を 80%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○ 「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進</p> <p>本校の教育理念である3E(Encourage, Engage, Empower)を基に、社会に貢献する協創力をみがく。</p>	B
<p>指標</p> <p>・ 中高合同の教員研修を学期に1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容②【施策6：国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>○ 英語教育の強化</p> <p>英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の教科において英語を用いた授業を実施する。</p>	B
<p>指標</p> <p>・ 英語を活用したプレゼンテーションを英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の教科の授業において実施する。</p>	
<p>取組内容③【施策6：国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>○ 公設民営学校(国際バカロレア)の設置</p> <p>・ 自国の伝統文化に根ざした国際理解教育と外国語教育に重点を置き、授業では競争的な課題探究型学習を多く実施し、英語によるコミュニケーション能力、異なる文化や考えを理解し多面的に深く志向する力、生涯にわたり学び続ける態度等を育成する。</p>	A
<p>指標</p> <p>・ グローバル探究科としての各教科におけるカリキュラムを開発、実践し、大阪市をはじめ多くの教育関係者に向けた研修会や公開授業、体験授業を年に3回以上実施する。</p>	
<p>取組内容④【施策7：健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○ 健康に関する現代的課題への対応</p> <p>・ 健康に関する指導を推進するとともに、日常の手洗い励行等を指導し感染症予防に努める。</p>	B
<p>指標</p> <p>・ 健康に関する指導の推進、並びに感染症等、生活習慣病、環境問題、心の健康、喫煙、飲酒、薬物についての正しい知識を身につけさせる体験型の取組を年に1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策8：施策を実現させていくための仕組みの推進】</p> <p>○ 校務負担を軽減するための環境整備</p> <p>・ ICTの活用による学校経営の効率化・高度化や、学校の情報公開の促進、PCを活用した授業資料の回収・共有、並びに定期試験や授業内の小テスト等の実施を推進する。</p>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議資料、授業資料等の配布回収をネットワーク上で共有し、CBT (Computer Based Test) の形式での試験を年に1回以上実施する。 	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】について指標については全ての項目で指標を上回った。 ・グローバル探究科として、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP) の認定を受けた。それに伴いグローバル探究科として、IB のカリキュラムと学習指導要領との相乗効果が得られるよう教育課程を編成し、令和2年度から実践する。 ・英語以外の教科(数学・理科)においても英語を用いて授業を行い、生徒の英語力向上が見られた。 ・非認知スキルや、問題解決能力をはかる試験を実施した。 ・「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング) の推進を行い、単元ごとの授業において実施の割合50%をめざし、中高合同の教職員研修会を行った。 ・英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の教科・科目において英語を用いた授業を実施し、授業内で英語を活用したプレゼンテーションプログラムを実施した。 ・グローバル探究科としての各教科におけるカリキュラムを開発、実践をし、大阪市をはじめ多くの教育関係者に向けた研修会や公開授業、出前授業を7回実施した。 ・健康に関する指導の推進、並びに感染症等、生活習慣病、環境問題、心の健康、喫煙、飲酒、薬物についての正しい知識を身につけさせる取組を実施した。 ・ICT を活用し、学校運営を効率化し、情報共有の円滑化を図った。具体的には、PC を活用した授業資料の回収・共有、定期試験や授業内の小テスト等の実施、保護者への連絡システムの構築等、ICT を十分に活用して教育活動の充実を図っている。 ・管理運営法人である大阪 YMCA のリソースを生かし、海外大学からのインターン生の長期受け入れ、海外からの訪問者等、グローバルマインドを育む多様な体験機会を提供して生徒の意識向上を図った。 ・社会参画意識の向上と授業内で培われたプレゼンテーションスキルの発表の場として EDIX 関西など学外でのプレゼンテーションに生徒が参加した。 	

次年度への改善点

- 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上をめざし、継続的なアンケートを実施し、分析を行い教育活動の向上を行う。
- 「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の推進を行い、全ての教科でのその割合 50%をめざし、教職員の意識とスキルの向上を図る。
- 非認知スキル能力や学力定着を確認するための考査を行う外部模擬試験等を導入し、教育活動を充実させる。
- 生徒の社会参画意識の向上をめざし、学外リソースの活用及び学外でのプレゼンテーションの機会を増やす。
- 民間の知見を活かした生徒の国際理解及びグローバルマインドを育む取組の機会を増やす。
- 校内にメディアセンターを設置し、ICT をさらに充実させた学校運営及び教育活動を展開させる。
- 英語で行う授業においてサポートが必要な生徒に対する支援体制を構築する。
- 初年度に得た知見について、大阪市を中心とした教育関係者及び機関に提供する機会を増やす。

1 学校運営の中期目標 《教務部》

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育校であり、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP) の導入をめざしている。国際バカロレアが認定されれば、大阪府の公立学校として初めての認定校となる。現在、IB 認定を受けるため、DP コーディネーターの協力を得ながら、国際バカロレア機構の定めた認定プロセスを進めている。

英語教育に重点を置いた教育活動として、英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）等の教科・科目において英語を用いた授業（イマージョン授業）を実施している。

高校 2 年生からは、グローバルコミュニケーションコース、グローバルサイエンスコースと IBDP コースの 3 コースの設定を計画しており、IBDP の導入に向け、教育課程の編成、シラバスの作成、人員配置の原案を作成する。

令和 2 年度からの大学入試制度の改変並びにそれに向けた e-ポートフォリオの運用等に関して、進路指導において準備を進める。

中期目標**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

組織的な学校運営を行い、生徒一人一人の実情に応じた教育手法を研究し、国際社会で活躍できる人材を育成していく教育活動の根底を固める。

多様な背景を持つ教員に、日本の中学校・高等学校における各教科・科目の評価について伝え、次期学習指導要領の内容を確実に定着させる。

生徒たちが積極的かつ戦略的に学習に取り組める環境をつくる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・各授業時数の確保並びに、生徒・教員にかかる負担を考慮しながら、年間行事予定の計画していく。
- ・コース選択をしていくうえでの説明会や、コースの体験授業を計画し、より具体的に生徒が進路選択をできるように、進路指導を進める。
- ・IBDP を見据えた教育課程の編成を検討していく。
- ・グローバル探究科として、次年度の学校設定科目について計画する。
- ・成績処理並びに学籍管理システムの導入と、全教職員に向けた研修を実施する。

3 本年度の自己評価結果の総括

- IB の認定校として認可を得ることができた。
- 初年度は1学年のみであったが、中学校と共同し、学校行事について生徒が主体となり実施することができた。
- 進路指導において、コース選択説明会またコースの体験授業を実施し、生徒がより具体的な進路選択ができるように努めた。
- IBDP を見据えた教育課程の編成を行った。
- 成績処理並びに学籍管理システムの導入及び運営を行うにあたって全教職員に向けた研修を実施した。

1 学校運営の中期目標 《生徒指導部》

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP) の導入をめざしている。国際バカロレアの認定を受ければ、大阪府の公立学校として初めての認定校となる。

本校の教育目標「社会に貢献する協創力をみがく」から、開校前には生活指導上の決まりを定めず、入学した生徒が自律して行動するよう支援することとした。当初生徒は「全てが自由」と受け止めていたが、自由に伴う責任や、一般社会における考え方やマナー、法律や条例等について学んだうえで、生徒自身が考えて行動できるようになってきている。また、生徒会組織については、プロジェクトとして生徒たちで組織を創り上げていく。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

様々な背景を持つ生徒、教職員が集う本校にて、「水都ならではの」のルールを、生徒が主体的に創っていくことを目標としている。生徒が、学校運営に直接関わる機会を設け、自治の意識と決定のプロセスを直に体験できる仕組みを作る。

生徒会の設置をはじめとする学校文化の創造への参画において、生徒の主体性が発揮されるよう支援する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・一人一人の違いを認識し、許容し理解できるようにしていく。
- ・学校独自の校則と同時に、社会におけるルールやマナーを自覚し、自分たちの行動を振り返るようにしていく。
- ・自由と責任について考え、理解し、行動できるようにする。
- ・生徒会組織を生徒と教職員とで協働し組織を立ち上げる。

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・学校運営また学校文化の形成における生徒の主体的な参画が見られ、生徒は自治の意識をもって決定のプロセスを体験できる仕組みがある。
- ・社会におけるルールやマナーを認識し、日常的に各々の自己の行動に対する振り返りを行う素地が培われている。
- ・教職員が生徒と十分な関わりをもち、生徒が自由と責任について考え、理解し、行動できるよう支援し、教育活動を進めている。
- ・生徒会組織について、生徒が主体となり教職員と協働して設置した。

1 学校運営の中期目標 《進路指導部》

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育校であり、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム（IBDP）の導入をめざしている。国際バカロレアの認定を受ければ、大阪府の公立学校として初めての認定校となる。

英語教育に重点を置いた教育活動として、英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）等の教科・科目において英語を用いた授業（イマージョン授業）を実施している。

将来、社会に向けてどのようなことをしたいかを既に明確に持っている生徒もいるが、考え始めたばかりの生徒もいる中で、まずは自己理解を深め自分に必要な経験やスキルを見極めていくプロセスが必要である。そのために、様々な職業に関する講話等のキャリア教育を計画する必要がある。

進路指導において、海外の大学に関しては、各国ごとの進学方法等、情報を収集していく必要がある。留学を希望し英語の運用能力を積極的に伸ばしていこうとする生徒に対する具体的な進路指導が課題となっている。

また、国内の大学への進学希望者については、個々の生徒に合わせた進路指導を丁寧に進めて行く必要がある。

中期目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

進学に関して、国内並びに各国の大学進学の方法や、費用等の詳細を把握し、進路指導の方針を立てる。IBDP を活用した入試に関する情報や、世界の情勢を把握し、IBDP が認定されてからのシミュレーションや方法を、計画的に検討していく。

上記と同時に、令和 2 年度から始まる大学共通試験に向けた対策を検討し、教科・科目ごとの模擬試験をはじめ、英語力をはかる外部試験や、多様な分野の知識やスキルを身につける外部試験等を実施し、学力面と精神面との両方の力をつける。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・一人一人の違いを認識し、自分についてより深い理解を促していく。
- ・自分の取り組みたいこと、チャレンジしたいことを発見していき、能動的に生徒が学習、協働していくための仕掛けづくりを実践していく。
- ・高校 2 年生以降で実施する、国内の大学入試に向けた模擬試験等を検討し準備を進める。
- ・できるだけ多くの海外の大学進学の情報収集し、どのように進路指導をしていくかの方針を立てる。

3 本年度の自己評価結果の総括

- 複数回の進路希望調査（コース選択含む）、進路指導担当者によるヒアリング等で、生徒のニーズを捉えて進路指導を進めた。
- 海外大学進学を含む生徒の希望に合わせた進路選択ができるよう、学校外から多様なゲストスピーカーを迎えキャリアガイダンスセミナーを行うなど生徒の進路選択における意識向上に努めた。
- 国内の大学進学を見据えた模擬試験等の準備を進めた。